

注3

大学番号：私433

[平成21年度設置]

計画の区分：大学の新設

注1

認可

大阪保健医療大学

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 福田学園
平成23年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 企画室

職名・氏名 ナカノ ナミ
中野 尚美

電話番号 06-6352-0093

（夜間） 06-6354-0091

（19:00~21:15）

F A X 06-6352-5995

e-mail naomi.nakano@fukuda.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は認可時の基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

認可時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には認可時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部
（□□学部）

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学新設の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

「意見伺い」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成23年3月11日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

1	調査対象大学等の概要等	……	1
2	授業科目の概要	……	5
3	施設・設備の整備状況，経費	……	15
4	既設大学等の状況	……	17
5	教員組織の状況	……	19
6	留意事項に対する履行状況等	……	31
7	その他全般的事項	……	35

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 福田学園

(2) 大学名

大阪保健医療大学

(3) 大学の位置

〒530-0043

大阪府大阪市北区天満一丁目9番27号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	(フクダ マスカズ) 福田 益和 (平成4年12月)		
学長	(オノ ケイロウ) 小野 啓郎 (平成21年4月)	(セイノ ヨシキ) 清野 佳紀 (平成23年1月)	変更理由：健康上の理由による辞任に伴う変更、変更年月日：平成23年1月1日(23)
学部長	— — —		
学科長等	(ナカヤマ ヒロノブ) 中山 広宣 (平成21年4月)	(イシクラ タカシ) 石倉 隆 (平成23年4月)	変更理由：任期満了に伴う変更、変更年月日：平成23年4月1日(23)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成20年度に報告済の内容 → (20)

平成23年度に報告する内容 → (23)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。
 ・ 様式は, 平成20年度開設の4年制の学科の場合(平成23年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 学士(理学療法)	4	60	—	240	
作業療法専攻 学士(作業療法)	4	40	—	160	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	100 (—) [—]	— (—) [—]	100 (—) [—]	— (—) [—]	100 (—) [—]	— (—) [—]	1.08倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	304 (—) [—]	— (—) [—]	420 (—) [—]	— (—) [—]	372 (—) [—]	— (—) [—]		
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	295 (—) [—]	— (—) [—]	407 (—) [—]	— (—) [—]	366 (—) [—]	— (—) [—]		
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	131 (—) [—]	— (—) [—]	209 (—) [—]	— (—) [—]	196 (—) [—]	— (—) [—]		
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	91 (—) [—]	— (—) [—]	110 (—) [—]	— (—) [—]	122 (—) [—]	— (—) [—]		
入学定員超過率 B/A			0.91		1.10		1.22			

- (注) ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「—」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで**記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。

なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

- ・ 「平成23年度」には、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
- ・ 「平成20～22年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] —	[-] —	[0] 91	[-] —	[0] 110	[-] —	[0] 122	[-] —	
2年次	[-] —	[-] —	/		[0] 88	[-] —	[0] 106	[-] —	
3年次	[-] —	[-] —			/		/		[0] 81
4年次	[-] —	[-] —	/						/
計	[-] —	[-] —			[0] 91	[-] —	[0] 198	[-] —	

- (注) ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学整数**を記入してください。
 - ・ 「平成23年度」には、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
 - ・ 「平成20～22年度」には、確定した数値を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	在学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成20年度 (平成20年4月1日～ 平成21年3月31日)	計 []	(累積)計 []	%]
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
(主な退学理由)			
平成21年度 (平成21年4月1日～ 平成22年3月31日)	計 []	(累積)計 []	[- %] 3.3%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 3人	うち平成21年度 91人	
(主な退学理由) ・除籍 2人 ・他の教育機関への入学・転学 1人			
平成22年度 (平成22年4月1日～ 平成23年3月31日)	計 []	(累積)計 []	[- %] 5.6%
	うち平成20年度入学者 人	うち平成20年度 人	
	うち平成21年度入学者 7人	うち平成21年度 88人	
	うち平成22年度入学者 4人	うち平成22年度 110人	
(主な退学理由) ・就職 3人 ・他の教育機関への入学・転学 1人 ・学生個人の心身に関する事情 1人 ・進路変更 6人			

(注)・各年度の退学者数・在学者数については、該当年度間(例えば、平成22年度であれば、平成22年4月1日から平成23年3月末まで)の状況を記載してください。また、数字については確定した数値を記入してください。

- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度における退学者数】を、【当該対象年度の入学者数+当該対象年度前年度までの確定した在学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。なお、参考までに例示を添付しますので、そちらをご参照ください。
- ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に、その人数も含めて記入してください。
 - ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 - ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<保健医療学部 リハビリテーション学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
(保健医療学部リハビリテーション学科 共通)												
教養科目	英語コミュニケーションⅠ(英会話初級)	1 前	2									
	英語コミュニケーションⅡ(英会話中級)	1 後		2								
	英語コミュニケーションⅢ(英文抄読)	1 後		2								
	国語表現学	1 前	2									
	論理学	1 後	2									
	人間関係学	1 前		2								
	コミュニケーション・リハビリテーション学	2 後	2			2						
	心理学	1 前		2								
	言語学	2 前		2		1						
	情報処理学	1 前	2									
	医療情報学	1 後	2									
	統計学	3 前		2								
	文学	3 後		2								
	教育学	3 前		2								
	法学概論	3 後		2								
	国際社会と日本	3 前		2								
	物理学	1 前	2									
	生物学	前 1-後	2									生理学の履修の前に学習する必要があるとの理由から変更(23)
	生活科学(福祉住環境論)	後 2-前		2				1				病理学、整形外科学の授業において、障害、疾患について学習した上での履修が効果的であるとの理由から変更(23)
	自然科学概論	2 後		2								
	栄養学	1 前		2								
小計(21科目)	—		16	6	0	3		1				

医療人づくりの教育科目	基礎ゼミナール	1 通	2							<p>元担当であった教授の退職に伴い後任として教授を採用 (23)</p> <p>担当 柴田 雅朗 (教授) 平成22年9月 教員審査済 判定 可 (23)</p> <p>元担当であった准教授の退職に伴い他の准教授が担当 (23)</p> <p>担当 福井 信佳 (准教授) 平成21年9月 教員審査済 判定 可 (23)</p> <p>新規採用した講師が担当 (23)</p> <p>担当 大槻 桂右 (講師) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)</p> <p>昇格した講師が担当 (23)</p> <p>担当 足立 一 (講師) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)</p> <p>元担当の助教と新規採用の助教の交代 (23)</p> <p>担当 大友 健治 (助教) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)</p> <p>クラス編成により、各年度での担当者の変更 (23)</p> <p>受講者数減少につき、クラス数を減じたため、担当者を減ずる (22)</p> <p>本人の健康上の理由により、就任延期となった為専任講師1名減 (21)</p>
	医の倫理(医療倫理学・生命倫理学)	1 前	1							<p>学長 (教授) 退任により、兼任講師が担当する。(23)</p>
	チーム医療論	4 後	1							<p>就任辞退のあった兼任講師が担当予定であったが、新規採用した教授が担当 (22)</p> <p>担当 チーム医療論 (教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 (22)</p>
	スポーツ医学	2 前	1							
	リハビリテーション概論	1 前	1							
	リハビリテーション医学	1 後	1							<p>学長担当の授業を軽減し、新規採用した教授が担当 (22)</p> <p>担当 リハビリテーション医学 (教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 (22)</p>
	作業療法概論 (理学療法専攻のみ)	3 前	1							
	理学療法概論 (作業療法専攻のみ)	3 前	1							
	言語聴覚概論	3 前	1							
	看護学・介護学概論	3 後	1						2	
	疫学・公衆衛生学	1 後 1 前	1							<p>当該科目の授業内容から、他科目を受講し医療的基礎に馴染んだ上で受講した方がより教育効果があがるという判断から開講時期を変更 (21) (22)</p>
	救急医学・救急措置法	3 後	1							
	地域医療実践学	4 後	1							
	障害者福祉論	2 前	1						1	
	健康科学・開発	1 後	1							
感染症学	3 前	1							<p>就任延期であった教授の後任として、教授を採用 (23)</p> <p>担当 藤岡 重和 (教授) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)</p>	

	医療安全学	3 前	1			1				就任延期であった教授の後任として、教授を採用 (23) 担当 藤岡 重和 (教授) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)
	小計 (16科目)	—	17	0	0	8	3 -4	8 -6 7	1	准教授の昇格、助教の昇格、講師の採用に伴う変更 (23) 本人の健康上の理由により、就任延期となった為専任講師の小計1名減 (21)
専門基礎科目	基礎解剖学	1 前	1			1				元担当であった教授の退職に伴い後任として、教授を採用 (23) 担当 柴田 雅朗 (教授) 平成22年9月 教員審査済 判定 可 (23)
	解剖学基礎実習	1 前	1						2 3 2	元担当であった教授の退職に伴い後任として、教授を採用 (23) 担当 柴田 雅朗 (教授) 平成22年9月 教員審査済 判定 可 (23) クラス数を3クラスから2クラスに減じたため、担当者を減ずる (22) 本来なら助手の業務を助教に担わせる予定であったが、助手で充当できることとなった為変更 (21)
	運動器系の解剖学	1 後	1			1				元担当であった教授の退職に伴い後任として、教授を採用 (23) 担当 柴田 雅朗 (教授) 平成22年9月 教員審査済 判定 可 (23)
	神経系の解剖学	1 後	1			1				元担当であった教授の退職に伴い後任として、教授を採用 (23) 担当 柴田 雅朗 (教授) 平成22年9月 教員審査済 判定 可 (23)
	内臓系の解剖学	1 後	1			1				元担当であった教授の退職に伴い後任として、教授を採用 (23) 担当 柴田 雅朗 (教授) 平成22年9月 教員審査済 判定 可 (23)
	生理学	1 通	2					1		担当教員 (講師) の新規採用 担当 岡崎 祐香 (講師) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)
	生理学実習	2 前	1					1	3 -4	担当教員 (講師) の新規採用 担当 岡崎 祐香 (講師) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23) 実習助手の実人数を減ずる (23)
	運動生理学	1 後	1							
	運動学総論	1 後	2			1		-1		担当教員の昇格 (23) 担当 境 隆弘 (教授) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)
	運動学各論	2 前	2			1		-1		担当教員の昇格 (23) 担当 境 隆弘 (教授) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)
	運動学実習	2 後	1			1		-1	2 3	クラス数を減じたため、担当者を減ずる (22) 担当教員の昇格 (23) 担当 境 隆弘 (教授) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)
	人間発達学	2 前	1							

専門基礎科目	臨床心理学	3 前	1																		
	病理学概論	2 前	1																		
	一般臨床医学(泌尿器・外科)	2 後	1																		
	内科学	2 通	2				1													新規採用した教授が担当 (23) 担当 藤岡 重和 (教授) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)	
	整形外科	2 通	2				1														
	臨床神経学	2 通	2				1													新規採用した教授が担当 担当 臨床神経学 (教授) 平成22年1月 教員審査済 判定 可 (22)	
	臨床運動学	2 後	1 (理)	1 (作)			1	+												担当教員の昇格 (23) 担当 境 隆弘 (教授) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)	
	精神医学	2 前	1																		
	精神科リハビリテーション学	2 後	1 (作)	1 (理)				+		1											元担当者の授業を軽減し、昇格した 講師に担当変更 (23) 担当 足立 一 (講師) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)
	小児科学	2 後 前		1				+													担当予定教員の就任延期のため、兼 任講師にて開講、併せて開講時期を 変更 (22)
	老年医学	2 後		1				1													新規採用した教授が担当 (23) 担当 藤岡 重和 (教授) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)
	高次脳機能障害学	2 前	1					1													
	小計 (24科目)	—	27	2	0		6	0	2				0								准教授の昇格、助教の昇格、講師の 採用に伴う変更 (23) 本来なら助手の業務を助教に担わせ る予定であったが、助手で充当でき ることとなった為小計の人数変更 (21)

(保健医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻)

専門科目	理学療法概論	1 前	1				1														
	理学療法障害学	2 後	1				1														
	理学療法管理学	4 後	1				1														
	理学療法研究法	2 後	1																		
	理学療法研究法実習	4 後	1										1								
	理学療法評価学Ⅰ (概論)	1 後	1								1										
	理学療法評価学Ⅱ (測定と評価)	1 後	1								1										
	理学療法評価学Ⅲ (評価プロセス)	2 前	1								1										
	理学療法評価学実習	3 後	1							+	1									1	元担当であった准教授の退職に伴い 後任として、講師を採用 (23) 担当 大槻 桂右 (講師) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)
	理学療法評価学演習	2 後	1							+	1										元担当であった准教授の退職に伴い 後任として、講師を採用 (23) 担当 大槻 桂右 (講師) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)
	運動療法学Ⅰ	2 後	2								1									+	前年度の実態を踏まえ、助手の配置 を取り止める (23) 実習的内容を含む授業のため、教育 効果を鑑み、助手を配置する (22)

専 門 科 目	運動療法学Ⅱ	3 前	2				1				
	小児期理学療法治療学	3 後	1			1					就任延期であった教授の後任として、兼任講師が担当 (23)
	呼吸障害理学療法治療学	3 前	1								
	代謝障害理学療法治療学	3 後	1			1					
	中枢神経障害理学療法治療学	3 後	1			1					就任予定であった兼任講師の就任辞退のため、教授が担当 (23) 担当 石倉 隆 (教授) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)
	老年期理学療法治療学	3 前	1								
	循環器障害理学療法治療学	3 後	1					1			新規採用した講師が担当 (23) 担当 大槻 桂右 (講師) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)
	神経筋障害理学療法治療学	3 前	1				1				
	リウマチ・有痛性障害理学療法治療学	3 後	1					1			
	運動器・スポーツ障害理学療法治療学	3 後	1					1			
	健康増進理学療法学	3 前	1			1					
	物理療法学	2 後	1			1					
	物理療法学実習	3 前	1			1				2 +	助手を追加 (23)
	義肢装具学	3 前	1								
	義肢装具学実習	3 後	1							1	
	日常生活活動学	3 前	1			1					
	日常生活活動学実習	3 後	1			1		+		1	実習助手を講師から助手に変更 (23)
	地域理学療法学	3 前	1								
	生活環境論	3 後	1								
	卒業研究論文	4 通	4			6	4	2			
臨床実習Ⅰ	1 前	1			2 +	1 -	3 -	2 +	3 -	担当教員の昇格 (23) 担当 境 隆弘 (教授) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23) 元担当であった准教授の退職に伴い後任として、講師を採用 (23) 担当 大槻 桂右 (講師) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23) 新規採用した助教が担当 (23) 担当 岩田 篤 (助教) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23) 元担当であった助手の退職に伴い後任として、助手を採用 (23)	

専門科目	臨床実習Ⅱ	1 後	1			2 +	1 +	3 +	2 +	3 +	<p>担当教員の昇格 (23)</p> <p>担当 境 隆弘 (教授) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)</p> <p>元担当であった准教授の退職に伴い後任として、講師を採用 (23)</p> <p>担当 大槻 桂右 (講師) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)</p> <p>新規採用した助教が担当 (23)</p> <p>担当 岩田 篤 (助教) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)</p> <p>元担当であった助手の退職に伴い後任として、助手を採用 (23)</p>
	臨床実習Ⅲ	2 後	1			2 +	1 +	3 +	2 +	3	<p>担当教員の昇格 (23)</p> <p>担当 境 隆弘 (教授) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)</p> <p>新規採用した講師が担当 (23)</p> <p>担当 大槻 桂右 (講師) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)</p> <p>新規採用した助教が担当 (23)</p> <p>担当 岩田 篤 (助教) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)</p>
	臨床実習Ⅳ	3 前	1			2 +	1 +	3 +	2 +	3	<p>担当教員の昇格 (23)</p> <p>担当 境 隆弘 (教授) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)</p> <p>新規採用した講師が担当 (23)</p> <p>担当 大槻 桂右 (講師) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)</p> <p>新規採用した助教が担当 (23)</p> <p>担当 岩田 篤 (助教) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)</p>
	総合臨床実習Ⅰ	3 後	2			3 +	1 +	3 +	2 +	3	<p>担当教員の昇格 (23)</p> <p>担当 境 隆弘 (教授) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)</p> <p>新規採用した講師が担当 (23)</p> <p>担当 大槻 桂右 (講師) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)</p> <p>新規採用した助教が担当 (23)</p> <p>担当 岩田 篤 (助教) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)</p>
	総合臨床実習Ⅱ	4 前	8			2	4	2	1	3	
	総合臨床実習Ⅲ	4 前	8			2	4	2	1	3	

小計 (38科目)	—	58	0	0	7 -6	2 -4	3	2 +	3	教授の新規採用、准教授の昇格、准教授の退職、助教の新規採用に伴う変更 (23)	
(保健医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻)											
専門科目	作業療法概論	1 前	1			1					
	基礎作業療法学Ⅰ	1 前	1					1	1	就任延期であった講師の後任として、准教授を採用 担当 基礎作業療法学Ⅰ (准教授) 平成21年9月 教員審査済 判定 可 (22) 本人の健康上の理由により、就任延期となった為兼任講師にて開講 (21)	
	基礎作業療法学Ⅱ	1 後	1					1	1	就任延期であった講師の後任として、准教授を採用 担当 基礎作業療法学Ⅱ (准教授) 平成21年9月 教員審査済 判定 可 (22) 本人の健康上の理由により、就任延期となった為兼任講師にて開講 (21)	
	基礎作業療法学Ⅲ	2 前	1					1			
	基礎作業療法学Ⅳ	2 後	1					1			
	作業療法評価学Ⅰ (概論)	1 後	1						1		
	作業療法評価学Ⅱ (測定と評価)	2 前	2						1		
	作業療法評価学Ⅲ (評価プロセス)	2 後	2						1		
	身体障害治療学Ⅰ	3 前	1						1	1	就任延期であった講師の後任として、准教授を採用 担当 身体障害治療学Ⅰ (准教授) 平成21年9月 教員審査済 判定 可 (22)
	身体障害治療学Ⅱ	3 前	1						1	1	就任延期であった講師の後任として、准教授を採用 担当 身体障害治療学Ⅱ (准教授) 平成21年9月 教員審査済 判定 可 (22)
	身体障害治療学Ⅲ	3 後	1						1	1	就任延期であった講師の後任として、准教授を採用 担当 身体障害治療学Ⅲ (准教授) 平成21年9月 教員審査済 判定 可 (22)
	精神障害治療学Ⅰ	3 前	1			1					
	精神障害治療学Ⅱ	3 後	1			1					
	発達障害治療学Ⅰ	3 前	1								
	発達障害治療学Ⅱ	3 後	1								
	老年期障害治療学Ⅰ	3 前	1								就任予定であった教授の就任辞退に伴い、兼任講師が担当 (23)
老年期障害治療学Ⅱ	3 後	1								就任予定であった教授の就任辞退に伴い、兼任講師が担当 (23)	
作業療法治療学実習Ⅰ	3 前	1							1	1 -2 助手の退職による、担当者の減 (23) 就任予定であった教授の就任辞退に伴い、助教が担当 (23) 担当 大友 健治 (助教) 平成23年1月 教員審査済 判定 可 (23)	

専門科目	作業療法治療学実習Ⅱ	3 後	1						1				助手の退職による、担当者の減(23) 就任予定であった教授の就任辞退に伴い、講師が担当(23) 担当 足立 一(講師) 平成23年1月 教員審査済 判定 可(23)	
	作業療法技術論Ⅰ	1 前	1							1				
	作業療法技術論Ⅱ	1 後	1							1				
	作業療法技術論Ⅲ	2 前	1							1				
	臨床ゼミナールⅠ	2 前	1					1						
	臨床ゼミナールⅡ	2 後	1					1						
	臨床ゼミナールⅢ	3 前	1					1						
	臨床ゼミナールⅣ	3 後	1					1						
	在宅ケア論	4 後	1							1				
	地域作業療法学Ⅰ	3 前	1					1						
	地域作業療法学Ⅱ	3 後	1					1						
	地域作業療法学実習	3 後	1					1	1	1			実習助手として、講師を追加(23)	
	日常生活活動学	3 前	1				1							
	卒業研究論文	4 通	3											就任延期であった講師の後任として、准教授を採用 担当 卒業研究論文(准教授) 平成21年9月 教員審査済 判定 可(22)
臨床見学実習	1 後	1											教員の追加(23) 担当 足立 一(講師) 平成23年1月 教員審査済 判定 可(23) 教員の追加(23) 担当 大友 健治(助教) 平成23年1月 教員審査済 判定 可(23) 教員(助手)の追加(23) 就任延期であった講師の後任として、准教授を採用 担当 臨床見学実習(准教授) 平成21年9月 教員審査済 判定 可(22) 本人の健康上の理由により、就任延期となった為専任講師1名減(21)	
評価学実習	3 後	3											教員の追加(23) 担当 足立 一(講師) 平成23年1月 教員審査済 判定 可(23) 教員の追加(23) 担当 大友 健治(助教) 平成23年1月 教員審査済 判定 可(23) 教員(助手)の追加(23) 就任延期であった講師の後任として、准教授を採用 担当 評価学実習(准教授) 平成21年9月 教員審査済 判定 可(22)	

専門科目	総合臨床実習Ⅰ	4	前	9									就任延期であった講師の後任として、准教授を採用 担当 総合臨床実習Ⅰ（准教授） 平成21年9月 教員審査済 判定 可（22）
	総合臨床実習Ⅱ	4	前	9									就任延期であった講師の後任として、准教授を採用 担当 総合臨床実習Ⅱ（准教授） 平成21年9月 教員審査済 判定 可（22）
	小計（36科目）	-						3	3	4	1	1	教授の就任辞退、助教の昇格、助教の新規採用に伴う変更（23） 就任延期であった講師の後任として、准教授を採用（22）
				58	0	0		-4	2	-4	1	-2	

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て（兼任、兼任教員が担当する科目を含む。）を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時（平成22年度に認可された大学等は設置認可時）より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。（今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。）
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記載する必要がなかった学部等（平成19年度認可以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記載してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても、「(1) 授業科目表」にはその状況を反映させてください。（ただし、「(3) 未開講科目」欄には記載する必要はありません。）

(2) 授業科目数

保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
83	16	0	99	83	16	0	99	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
81	16	0	97	81	16	0	97	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[] 内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置認可時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。(ただし, 未開講科目があった場合は, (1)「授業科目表」にその状況を反映させてください。)

(4) 廃止科目 該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置認可時の計画にあった授業科目を何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

(天満橋キャンパス)

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地と別地 (距離約110km、移動 時間約1時間)			
	校舎敷地	962.15 m ²	1510.60 m ²	0 m ²	2472.75 m ²				
	運動場用地	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²				
	小 計	962.15 m ²	1510.60 m ²	0 m ²	2472.75 m ²				
	そ の 他	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²				
	合 計	962.15 m ²	1510.60 m ²	0 m ²	2472.75 m ²				
(2) 校 舎		専 用 4,384.40 m ² (3,720.47 m ²)	共 用 4,292.71 m ² (4,814.23 m ²)	共用する他の 学校等の専用 529.27 m ² (671.68 m ²)	計 9,206.38 m ² (9,206.38 m ²)	<共用する他の学校> ・大阪リハビリテーション専門 学校、収容定員160 名、設置基準620m ² 。			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 (補助職員 0人) (補助職員 0人)			
	10 室	6 室	12 室	1 室	0 室				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		左記以外に講師・助教の教員用 として共同研究室1室(155.94 m ²)を設置。個人ブース16席、打 合せスペース20席。			
	保健学部 リハビリテーション学科			23 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点		
		冊	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕					
	保健医療学部	11,800 [1,700] 11,512 [1,215] (8,431 [802]) (-6,555 [66])	60 [20] 74 [20] (58 [23]) (- 48 [14])	13 [10] 9 [9] (7 [7])	250 280 (206)	1,000 1,216 (846)	50 70 (29)	教育・研究資料のより 一層の充実を図る為、 当初計画より外国図書 を中心に冊数を増やし て整備した。(21)	
	計	11,800 [1,700] 11,512 [1,215] (8,431 [802]) (-6,555 [66])	60 [20] 74 [20] (58 [23]) (- 48 [14])	13 [10] 9 [9] (7 [7])	250 280 (206)	1,000 1,216 (846)	50 70 (29)		
(6) 図 書 館	面 積	閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数					
	315.36 m ²	69 席		20,880 冊					
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				彩都キャンパスに整備			
	0 m ²	-							
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	職位等により個人研究 費の支給限度額を分け 平均値をとったところ、 当初計画の一人あたり 金額と若干の差異 がでた。(21) 図書費には電子ジャーナル の整備費(運用コスト含 む)を含む。
		教員1人当り研究費等	365千円 350千円	400千円	図書購入費	10,900千円	9,100千円	5,000千円	
	共 同 研 究 費 等	2,000千円	3,000千円	設備購入費	61,202千円	77,259千円	2,000千円		
	学生1人当 り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,900千円	1,600千円	1,600千円	1,600千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、資産運用収入、雑収入等							

(彩都キャンパス)

区 分		内 容				備 考	
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地と別地 (距離約110km、移動 時間約1時間)	
	校 舎 敷 地	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²		
	運 動 場 用 地	1,124.10 m ²	0 m ²	0 m ²	1,124.10 m ²		
	小 計	1,124.10 m ²	0 m ²	0 m ²	1,124.10 m ²		
	そ の 他	0 m ²	0 m ²	0 m ²	0 m ²		
	合 計	1,124.10 m ²	0 m ²	0 m ²	1,124.10 m ²		
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		
		m ²	m ²	m ²	m ²		
		(m ²)	(m ²)	(m ²)	(m ²)		
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	セミナールーム2室と 教員控室・観察室、器 具庫、応接室を設けて いる。	
	一 室	一 室	一 室	一 室 (補助職員 一人)	一 室 (補助職員 一人)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数			
		保健医療学部 リハビリテーション学科		一 室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書	学術雑誌	視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本	
		[うち外国書]	[うち外国書]				電 子 ジ ャ ー ナ ル
		冊	種	[うち外国書]	点	点	点
		〇〇学部	[]	[]	[]	()	()
計	[]	[]	[]	()	()	()	
(6) 図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数			
		m ²					
(7) 体 育 館		面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要			体育館7リナ 797.06 m ²	
		1,304.79 m ²	-		-		
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開 設 年 度	完 成 年 度	区 分	開 設 前 年 度	開 設 年 度	完 成 年 度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円
	共 同 研 究 費 等	千円	千円	設 備 購 入 費	千円	千円	千円
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次
		千円	千円	千円	千円	千円	千円
学生納付金以外の維持方法の概要							

- (注) ・ 設置認可時の計画を、認可申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成23年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(23)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

該当なし

大学の名称	〇〇大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定員	収 容 定 員	学位又 は称号	定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
大学の名称	〇〇短期大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定員	収 容 定 員	学位又 は称号	定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			

- (注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者（学校法人等）が、既に設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校等の学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成23年5月1日現在の状況を記入してください。
（専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。）
- ・ 認可申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。
 - ・ 「定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで（小数点第3位を切り捨て）を、学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）単位で記入してください。なお、学生募集停止を行った学科（短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程）の記載は不要です。
 - ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「－」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<保健医療学部 リハビリテーション学科>

(1) 担当教員表

認 可 時 の 計 画				変 更 状 況				備 考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	教授	小野 啓郎 (78歳)	平成21年4月	医の倫理 (医療倫理学・生命倫理学)	兼任	講師	浦上 秀一 (72歳)	平成23年4月	医の倫理 (医療倫理学・生命倫理学)	平成22年12月 小野啓郎学長退任による担当者の変更 (23)
				リハビリテーション医学	専	教授	阿部 和夫 (53歳)	平成22年4月	リハビリテーション医学	新規採用した教授阿部和夫に変更 (22) 「平成22年1月教員審査済」
専	教授	渡辺 正仁 (60歳)	平成21年4月	基礎ゼミナール	専	教授	柴田 雅朗 (54歳)	平成23年1月	基礎ゼミナール	平成22年12月 渡辺正仁教授退任による担当者の変更 (23) 「平成22年9月教員審査済」
				基礎解剖学					基礎解剖学	
				解剖学基礎実習					解剖学基礎実習	
				運動器系の解剖学					運動器系の解剖学	
				神経系の解剖学					神経系の解剖学	
				内臓系の解剖学					内臓系の解剖学	
				卒業研究論文					卒業研究論文	
専	教授	中村 憲正 (46歳)	平成21年4月	基礎ゼミナール						
				スポーツ医学						
				整形外科学						
				卒業研究論文						
専	教授	山口 忍 (50歳)	平成22年4月	コミュニケーション・リハビリテーション学						
				言語聴覚概論						
専	教授	佐藤 秀紀 (54歳)	平成21年4月	基礎ゼミナール						
				リハビリテーション概論						
				健康科学・開発						
				健康増進理学療法学						
				卒業研究論文						
				総合臨床実習Ⅰ						
				総合臨床実習Ⅱ						
				総合臨床実習Ⅲ						
専	教授	洲崎 俊男 (60歳)	平成22年4月	理学療法障害学						
				代謝障害理学療法治療学						
				物理療法学						
				物理療法学実習						
				日常生活活動学						
				日常生活活動学実習						
				卒業研究論文						

専	教授 (学科 長理学 療法専 攻長)	石倉 隆 (45歳)	平成21年 4月	基礎ゼミナール												
				理学療法概論												
				理学療法管理学												
				卒業研究論文												
				臨床実習Ⅰ												
				臨床実習Ⅱ												
				臨床実習Ⅲ												
				臨床実習Ⅳ												
				総合臨床実習Ⅰ												
				総合臨床実習Ⅱ												
				総合臨床実習Ⅲ												
専	教授	宮田 曠 (70歳)	平成22年 4月		専	教授	藤岡 重和 (50歳)	平成23年 4月	基礎ゼミナール	平成24年4月 宮田曠教授後任として採用した教授藤岡重和教授に担当科目の追加 (23)						
				感染症学					平成23年3月 宮田曠教授、就任辞退により後任教授を採用。(23) 「平成23年1月教員審査済」							
				医療安全学					医療安全学							
				小児科学					兼任 講師	吉原 直子 (45歳)	平成23年 4月	小児科学	平成23年3月 宮田曠教授、就任辞退による担当者の変更。(23)			
				小児科学					兼任 講師	仲野 由季子 (54歳)	平成22年 4月	小児科学	平成22年3月 宮田曠教授、一身上の都合により、就任延期。平成22年度開講科目の担当者を変更 (22)			
				小児期理学療法治療学									平成23年3月 宮田曠教授、就任辞退により、複数担当者である、横田浩子兼任講師が単独で担当する。(23)			
卒業研究論文	専	教授	藤岡 重和 (50歳)	平成23年 4月	卒業研究論文	平成23年3月 宮田曠教授、就任辞退により後任教授を採用。(23) 「平成23年1月教員審査済」										
専	教授	森岡 悦子 (50歳)	平成22年 4月	コミュニケーション・リハビリテーション学												
				高次脳機能障害学												
専	教授 (作業療 法専 攻長)	中山 広宣 (58歳)	平成21年 4月	基礎ゼミナール												
				作業療法概論												
				精神科リハビリテーション学							専	講師	足立 一 (40歳)	平成23年 4月	精神科リハビリテーション学	平成23年3月 中山広宣教授の担当時間数調整のため、担当者の交代。(23) 「平成23年1月教員審査済」
				精神障害治療学Ⅰ												
				精神障害治療学Ⅱ												
				卒業研究論文												
				評価学実習												
				総合臨床実習Ⅰ												
総合臨床実習Ⅱ																

専	教授	松井 理直 (42歳)	平成22年 4月	言語学 卒業研究論文						
専	教授	小川 敬之 (46歳)	平成23年 4月	作業療法治療学実習Ⅰ	専	助教	大友 健治 (42歳)	平成23年 4月	作業療法治療学実習Ⅰ	平成23年3月 小川敬之教授、就任 辞退による担当者の 変更。(23) 「平成23年1月教員審 査済」
				作業療法治療学実習Ⅱ	専	講師	足立 一 (40歳)	平成23年 4月	作業療法治療学実習Ⅱ	平成23年3月 小川敬之教授、就任 辞退による担当者の 変更。(23) 「平成23年1月教員審 査済」
				老年期障害治療学Ⅰ	兼任	講師	横井 賀津志 (44歳)	平成23年 4月	老年期障害治療学Ⅰ	平成23年3月 小川敬之教授、就任 辞退による担当者の 変更。(23)
				老年期障害治療学Ⅱ						
				卒業研究論文	専	講師	足立 一 (40歳)	平成23年 4月	卒業研究論文	平成23年3月 小川敬之教授、就任 辞退による担当者の 変更。(23) 「平成23年1月教員審 査済」
				総合臨床実習Ⅰ	専	助教	大友 健治 (42歳)	平成23年 4月	総合臨床実習Ⅰ	平成23年3月 小川敬之教授、就任 辞退による担当者の 変更。(23) 「平成23年1月教員審 査済」
総合臨床実習Ⅱ										
専	准教授	境 隆弘 (40歳)	平成21年 4月	基礎ゼミナール	専	教授				昇格(23) 「平成23年1月教員審 査済」
				運動学総論						
				運動学各論						
				運動学実習						
				臨床運動学						
				卒業研究論文						
				臨床実習Ⅰ						
				臨床実習Ⅱ						
				臨床実習Ⅲ						
				臨床実習Ⅳ						
				総合臨床実習Ⅰ						
				総合臨床実習Ⅱ						
				総合臨床実習Ⅲ						
専	准教授	野村 卓生 (32歳)	平成21年 4月	基礎ゼミナール	専	講師	大槻 桂右 (30歳)	平成23年 4月	基礎ゼミナール	平成23年3月 野村卓生准教授退任 による担当者の変 更。および新規採用 に伴う担当科目の追 加。(23) 「平成23年1月教員審 査済」
				理学療法評価学実習					理学療法評価学実習	
				理学療法評価学演習					理学療法評価学演習	
				卒業研究論文					卒業研究論文	
				臨床実習Ⅰ					臨床実習Ⅰ	
				臨床実習Ⅱ					臨床実習Ⅱ	
				総合臨床実習Ⅱ					総合臨床実習Ⅱ	
				総合臨床実習Ⅲ					総合臨床実習Ⅲ	
									臨床実習Ⅲ	
									臨床実習Ⅳ	
	総合臨床実習Ⅰ									

専	准教授	藪中 良彦 (48歳)	平成21年 4月	基礎ゼミナール					
				卒業研究論文					
				臨床実習Ⅰ					
				臨床実習Ⅱ					
				臨床実習Ⅲ					
				臨床実習Ⅳ					
				総合臨床実習Ⅰ					
				総合臨床実習Ⅱ					
				総合臨床実習Ⅲ					
専	准教授	井上 悟 (49歳)	平成24年 4月	神経筋障害理学療法治療学					
				卒業研究論文					
				総合臨床実習Ⅱ					
				総合臨床実習Ⅲ					
兼任	講師	井上 悟 (49歳)	平成23年 4月	神経筋障害理学療法治療学					
専	准教授	吉田 文 (44歳)	平成21年 4月	基礎ゼミナール					
				基礎作業療法学Ⅲ					
				基礎作業療法学Ⅳ					
				臨床ゼミナールⅠ					
				臨床ゼミナールⅡ					
				卒業研究論文					
				臨床見学実習					
				評価学実習					
				総合臨床実習Ⅰ					
				総合臨床実習Ⅱ					
専	准教授	辻 郁 (48歳)	平成23年 4月	臨床ゼミナールⅢ					
				臨床ゼミナールⅣ					
				地域作業療法学Ⅰ					
				地域作業療法学Ⅱ					
				地域作業療法学実習					
				卒業研究論文					
				評価学実習					
				総合臨床実習Ⅰ					
				総合臨床実習Ⅱ					
専	講師	福山 智子 (45歳)	平成21年 4月	基礎ゼミナール					
				チーム医療論					
				看護学・介護学概論					

専	講師	今井 公一 (49歳)	平成21年 4月	基礎ゼミナール					
				チーム医療論					
				理学療法評価学Ⅰ(概論)					
				理学療法評価学Ⅱ(測定と評価)					
				理学療法評価学Ⅲ(評価プロセス)					
				卒業研究論文					
				臨床実習Ⅰ					
				臨床実習Ⅱ					
				臨床実習Ⅲ					
				臨床実習Ⅳ					
				総合臨床実習Ⅰ					
				総合臨床実習Ⅱ					
総合臨床実習Ⅲ									
専	講師	橋本 卓也 (56歳)	平成21年 4月	基礎ゼミナール					
				看護学・介護学概論					
				障害者福祉論					
				卒業研究論文					
				臨床見学実習					
				評価学実習					
				総合臨床実習Ⅰ					
				総合臨床実習Ⅱ					
専	講師	山田 隆人 (40歳)	平成21年 4月	生活科学(福祉住環境論)					
				基礎ゼミナール					
				作業療法技術論Ⅰ					
				作業療法技術論Ⅱ					
				作業療法技術論Ⅲ					
				在宅ケア論					
				卒業研究論文					
				臨床見学実習					
				評価学実習					
				総合臨床実習Ⅰ					
				総合臨床実習Ⅱ					
専	講師	佐藤 睦美 (39歳)	平成21年 4月	基礎ゼミナール					
				運動療法学Ⅰ					
				運動療法学Ⅱ					
				運動器・スポーツ障害理学療法治療学					
				リウマチ有痛性障害理学療法治療学					
				卒業研究論文					
				臨床実習Ⅰ					
				臨床実習Ⅱ					
				臨床実習Ⅲ					
				臨床実習Ⅳ					
				総合臨床実習Ⅰ					
				総合臨床実習Ⅱ					
				総合臨床実習Ⅲ					

専	講師	小島 久典 (36歳)	平成21年 4月	基礎ゼミナール	専	准教授	福井 信佳 (50歳)	平成22年 4月	基礎ゼミナール	小島久典専任講師の 就任辞退のために採 用した後任准教授福 井信佳が担当 (22) 「平成21年9月教員審 査済」
							後任未定			就任延期 (21) 本人の健康上の 理由により就任 をH22年4月まで 延期。「基礎ゼ ミナール」は他 に専任担当教員 がいるため支障 はない。
				基礎作業療法学Ⅰ	専	准教授	福井 信佳 (50歳)	平成22年 4月	基礎作業療法学Ⅰ	小島久典専任講師の 就任辞退のために採 用した後任准教授福 井信佳が担当 (22) 「平成21年9月教員審 査済」
					兼任	講師	平尾 一幸	平成21年 4月	基礎作業療法学Ⅰ	H21年3月 本人の健康上の理由 により就任をH22年4 月まで延期。担当者 を変更。(21)
				基礎作業療法学Ⅱ	専	准教授	福井 信佳 (50歳)	平成22年 4月	基礎作業療法学Ⅱ	小島久典専任講師の 就任辞退のために採 用した後任准教授福 井信佳が担当 (22) 「平成21年9月教員審 査済」
					兼任	講師	平尾 一幸	平成21年 4月	基礎作業療法学Ⅱ	H21年3月 本人の健康上の理由 により就任をH22年4 月まで延期。担当者 を変更。(21)
				身体障害治療学Ⅰ	専	准教授	福井 信佳 (50歳)	平成22年 4月	身体障害治療学Ⅰ	小島久典専任講師の 就任辞退のために採 用した後任准教授福 井信佳が担当 (22) 「平成21年9月教員審 査済」
				身体障害治療学Ⅱ						
				身体障害治療学Ⅲ						
				卒業研究論文						
				臨床見学実習	専	准教授	福井 信佳 (50歳)	平成22年 4月	臨床見学実習	小島久典専任講師の 就任辞退のために採 用した後任准教授福 井信佳が担当 (22) 「平成21年9月教員審 査済」
							後任未定			就任延期 (21) 本人の健康上の 理由により就任 をH22年4月まで 延期。「臨床見 学実習」は他に 専任担当教員が いるため支障は ない。
				評価学実習	専	准教授	福井 信佳 (50歳)	平成22年 4月	評価学実習	小島久典専任講師の 就任辞退のために採 用した後任准教授福 井信佳が担当 (22) 「平成21年9月教員審 査済」
				総合臨床実習Ⅰ						
総合臨床実習Ⅱ										
基礎ゼミナール	専	講師	早坂 友成 (32歳)	平成21年 4月	基礎ゼミナール					
作業療法評価学Ⅰ(概論)										
作業療法評価学Ⅱ(測定と評価)										
作業療法評価学Ⅲ(評価プロセス)										
卒業研究論文										
臨床見学実習										
評価学実習										
総合臨床実習Ⅰ										
総合臨床実習Ⅱ										

専	助教	清田 (古根) 直恵 (26歳)	平成21年 4月	基礎ゼミナール					
				臨床実習 I					
				臨床実習 II					
				臨床実習 III					
				臨床実習 IV					
				総合臨床実習 I					
				総合臨床実習 II					
				総合臨床実習 III					
専	助教	足立 一 (38歳)	平成22年 4月		専 講師		平成23年 4月	基礎ゼミナール	昇格、及び担当科目 の追加。(23) 「平成23年1月教員審 査済」
								作業療法治療学実習 I	
								臨床見学実習	
				評価学実習					
				総合臨床実習 I					
				総合臨床実習 II					
					専 助教	岩田 篤 (30歳)	平成23年 4月	基礎ゼミナール	平成23年4月 新規採用(23) 「平成23年1月教員審 査済」
								臨床実習 I	
								臨床実習 II	
					専 助教	大友 健治 (42歳)	平成23年 4月	基礎ゼミナール	平成23年4月 新規採用(23) 「平成23年1月教員審 査済」
								作業療法治療学実習 II	
								臨床見学実習	
								評価学実習	
兼任	講師	木村 眞一 (49歳)	平成22年 4月	チーム医療論	専任 教授	阿部 和夫 (53歳)	平成22年 4月	チーム医療論	平成22年3月 木村眞一兼任講師就 任辞退による担当 者の変更(22) 新規採用した教授阿 部和夫が担当(22) 「平成22年1月教員審 査済」
				救急医学・救急措置法		後任未定			開講時である平成23 年10月までに後任の 兼任講師を採用予定 (23)
						後任未定			開講時である平成23 年4月までに後任の兼 任講師を採用予定 (22)
				地域医療実践学		後任未定			開講時である平成24 年4月までに後任の兼 任講師を採用予定 (22)
					専 教授	藤岡 重和 (50歳)	平成23年 4月	内科学	新規採用した教授藤 岡重和が担当(23) 「平成23年1月教員審 査済」
	兼任 講師	横山 建二 (51歳)	平成22年 4月	内科学	内科学の広範な領域 を講義するため、オ ムニバス方式に変更 (22)				
	兼任 講師	伊藤 敏文 (52歳)	平成22年 4月						
	兼任 講師	宮田 哲 (50歳)	平成22年 4月						
	兼任 講師	佐々木 義明 (50歳)	平成22年 4月						
	兼任 講師	長谷川 新治 (46歳)	平成22年 4月						

兼任	講師	近藤 未奈 (33歳)	平成21年 4月	英語コミュニケーションⅠ(英会話初級) 英語コミュニケーションⅡ(英会話中級) 英語コミュニケーションⅢ(英文抄読)							
兼任	講師	能勢 雅子 (55歳)	平成21年 4月	人間関係学	兼任	講師	吉富 千恵 (37歳)	平成22年 4月	人間関係学	平成22年3月 能勢雅子兼任講師就 任辞退による担当 者の変更 (22)	
兼任	講師	鈴木 暁子 (49歳)	平成21年 4月	心理学	兼任	講師	鈴木 暁子 (51歳)	平成23年 4月	心理学	平成23年3月 黒崎優美兼任講師就 任辞退による担当 者の変更 (23)	
				心理学	兼任	講師	黒崎 優美 (35歳)	平成22年 4月	心理学	平成22年3月 鈴木暁子兼任講師就 任辞退による担当 者の変更 (22)	
				臨床心理学	兼任	講師	吉住 優美 (36歳)	平成23年 4月	臨床心理学	平成23年3月 鈴木暁子兼任講師就 任辞退による担当 者の変更 (23)	
兼任	講師	宮本 頼和 (61歳)	平成21年 4月	情報処理学							
兼任	講師	岡崎 祐香 (30歳)	平成21年 4月	生物学	兼任	講師	林 研 (42歳)	平成22年 4月	生物学	平成22年3月 岡崎祐香兼任講師担 当辞退による担当 者の変更 (22)	
				自然科学概論	兼任	講師	岡本 摩耶 (31歳)	平成22年 4月	自然科学概論	平成22年3月 岡崎祐香兼任講師担 当辞退による担当 者の変更 (22)	
				生理学実習	専	講師		平成23年 4月			平成23年4月 専任講師として採用 「平成23年1月教員審 査済」 (23)
				生理学							
兼任	講師	伊東 和幸 (49歳)	平成21年 4月	国語表現学	兼任	講師	岡崎 昌宏 (35歳)	平成22年 4月	国語表現学	平成22年3月 伊東和幸兼任講師就 任辞退による担当 者の変更 (22)	
兼任	講師	松崎 英明 (48歳)	平成21年 4月	論理学	兼任	講師	辻 虎志 (36歳)	平成22年 4月	論理学	平成22年3月 松崎英明兼任講師就 任辞退による担当 者の変更 (22)	
兼任	講師	田中 則子 (43歳)	平成21年 4月	物理学	兼任	講師	萩原 直樹 (60歳)	平成22年 4月	物理学	平成22年3月 授業評価の結果に基 づく担当者の変更 (22)	
兼任	講師	矢内 純吉 (76歳)	平成21年 4月	疫学・公衆衛生学	兼任	講師	白井文恵 (43歳)	平成21年 4月	疫学・公衆衛生学	平成21年3月 矢内純吉兼任講師就 任辞退による担当 者の変更 (21)	
				精神医学	兼任	講師	小畔 美弥子 (48歳)	平成22年 4月	精神医学	平成21年3月 矢内純吉兼任講師就 任辞退による担当 者の変更 (22)	
				精神医学			後任未定			就任辞退 (21) 「後任未定」 「精神医学」は H22年4月 (2年 次前期) 開講科 目のため、平成 21年10月から兼 任教員選考予 定。	

兼任	講師	松村 泰志 (49歳)	平成21年 4月	医療情報学	兼任	講師	周藤俊治 (38歳)	平成21年 4月	医療情報学	平成21年3月 松村泰志兼任講師就 任辞退による担当者 の変更 (21)
				医療情報学	兼任	講師	星 雅文 (37歳)	平成21年 4月	医療情報学	
兼任	講師	松村 泰志 (49歳)	平成21年 4月	統計学	兼任	講師	武川 公 (64歳)	平成23年 4月	統計学	平成23年3月 松村泰志兼任講師就 任辞退による担当者 の変更 (23)
								後任未定		就任辞退 (21) 「後任未定」 「統計学」はH 23年4月 (3年次 前期) 開講科目 のため、平成22 年10月から兼任 教員選考予定。
兼任	講師	野田 康子 (52歳)	平成21年 4月	栄養学						
兼任	講師	中江 悟司 (27歳)	平成21年 4月	運動生理学	兼任	講師	山本 真史 (27歳)	平成23年 4月	運動生理学	平成23年3月 中江悟司兼任講師就 任辞退による担当者 の変更 (23)
兼任	講師	樋口 敏宏 (52歳)	平成22年 4月	臨床神経学	専	教授	阿部 和夫 (53歳)	平成22年 4月	臨床神経学	新規採用した教授阿 部和夫に変更 (22) 「平成22年1月教員審 査済」
兼任	講師	富士 武史 (57歳)	平成22年 4月	一般臨床医学 (泌尿器・外科)	兼任	講師	久保 伸夫 (55歳)	平成23年 4月	一般臨床医学 (泌尿器・外科)	平成23年4月 オムニバスの担当者 を追加 (23)
					兼任	講師	弓場 健義 (55歳)	平成22年 4月		平成22年3月 富士武史兼任講 師就任辞退によ る担当者の変更 一般臨床医学の 広範な領域を講 義するため、オ ムニバス方式に 変更 (22)
					兼任	講師	藤本 宣正 (51歳)	平成22年 4月		
					兼任	講師	池上 隆太 (41歳)	平成22年 4月		
					兼任	講師	山本 祐弥 (30歳)	平成22年 4月		
					兼任	講師	大橋 一友 (53歳)	平成22年 4月		
兼任	講師	櫻井 幹己 (76歳)	平成22年 4月	病理学概論	兼任	講師	吉澤 秀恵 (歳)	平成23年 4月	病理学概論	平成23年4月 オムニバスの担当者 を追加 (23)
					兼任	講師	富田 裕彦 (48歳)	平成22年 4月		平成22年3月 櫻井幹己兼任講 師就任辞退によ る担当者の変更 病理学概論の広 範な領域を講義 するため、オム ニバス方式に変 更 (22)
					兼任	講師	友枝 美樹 (32歳)	平成22年 4月		
					兼任	講師	北村 昌紀 (44歳)	平成22年 4月		
					兼任	講師	長田 盛典 (37歳)	平成22年 4月		
					兼任	講師	久保 千明 (27歳)	平成22年 4月		
					兼任	講師	結城 美智子 (35歳)	平成22年 4月		
兼任	講師	石川 勝憲 (71歳)	平成22年 4月	老年医学	専	教授	藤岡 重和 (50歳)	平成23年 4月	老年医学	新規採用した教授藤 岡重和が担当 (23) 「平成23年1月教員審 査済」
					兼任	講師	横山 建二 (51歳)	平成22年 4月	老年医学	平成22年3月 石川勝憲兼任講師就 任辞退による担当者 の変更 (22)
兼任	講師	後藤 昌弘 (47歳)	平成22年 4月	理学療法研究法						
				理学療法研究法実習						

兼任	講師	鈴木 順一 (49歳)	平成23年 4月	義肢装具学 義肢装具学実習						
兼任	講師	田中 仁 (41歳)	平成23年 4月	生活環境論						
兼任	講師	金 光浩 (41歳)	平成23年 4月	呼吸障害理学療法治療学	兼任	講師	野村 卓生 (34歳)	平成23年 4月	呼吸障害理学療法治療学	平成23年3月 金光浩兼任講師就任 辞退による担当者の 変更 (23)
兼任	講師	今井 保 (51歳)	平成23年 4月	中枢神経障害理学療法治療学	専	教授	石倉 隆 (47歳)	平成23年 4月	中枢神経障害理学療法治療学	平成23年3月 今井保兼任講師就任 辞退による担当者の 変更 (23) 「平成23年1月教員審 査済」
兼任	講師	尾谷 寛隆 (41歳)	平成23年 4月	循環器障害理学療法治療学	専	講師	大槻 桂右 (30歳)	平成23年 4月	循環器障害理学療法治療学	平成23年3月 尾谷寛隆兼任講師就 任辞退による担当者の 変更 (23) 「平成23年1月教員審 査済」
兼任	講師	石井 光昭 (44歳)	平成23年 4月	老年期理学療法治療学	兼任	講師	上田 陽之 (63歳)	平成23年 4月	老年期理学療法治療学	平成23年3月 石井光昭兼任講師就 任辞退による担当者の 変更 (23)
兼任	講師	遠近 高明 (40歳)	平成23年 4月	地域理学療法学	兼任	講師	新田 勉 (46歳)	平成23年 4月	地域理学療法学	平成23年3月 遠近高明兼任講師就 任辞退による担当者の 変更 (23)
兼任	講師	伊藤 斉子 (45歳)	平成23年 4月	発達障害治療学 I 発達障害治療学 II	兼任	講師	辻 薫 (52歳)	平成23年 4月	発達障害治療学 I 発達障害治療学 II	平成23年3月 伊藤斉子兼任講師就 任辞退による担当者の 変更 (23)
兼任	講師	横田 浩子 (57歳)	平成22年 4月	人間発達学 小児期理学療法治療学						
兼任	講師	鈴木 徳男 (57歳)	平成23年 4月	文学	兼任	講師	蘆田 耕一 (65歳)	平成23年 4月	文学	平成23年3月 鈴木徳男兼任講師就 任辞退による担当者の 変更 (23)
兼任	講師	柏木 正 (56歳)	平成23年 4月	教育学	兼任	講師	加藤 啓一郎 (59歳)	平成23年 4月	教育学	平成23年3月 柏木正兼任講師就任 辞退による担当者の 変更 (23)
兼任	講師	家 正治 (71歳)	平成23年 4月	法学概論 国際社会と日本						
兼任	講師	笠原 弘樹 (39歳)	平成22年 4月	臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合臨床実習Ⅲ	専	助教	岩田 篤 (30歳)	平成23年 4月	臨床実習Ⅲ 臨床実習Ⅳ 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 総合臨床実習Ⅲ	平成23年4月 新規採用した助教岩 田篤が担当(23) 「平成23年1月教員審 査済」
兼任	講師	伊藤 玲子 (31歳)	平成23年 4月	評価学実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ						平成23年3月 就任辞退 他に9人の担当者がい るため、後任不要。 (23)

(注) ・認可申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成して下さい。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、
 (○)学部 △(学科)の箇所を「共通」とし、表を分けて作成して下さい。
 ・後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入して下さい。
 ・辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入して下さい。
 ・年齢は、「**認可時の計画**」には**開設時現在の満年齢(科目就任時の満年齢ではありません)**を、「**変更状況**」には**平成23年5月1日現在の満年齢**を記入して下さい。
 ・教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」、「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入して下さい。
 また、「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出し、教員判定の結果が出ていない場合は「〇年〇月変更書提出済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入して下さい。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入して下さい。
 ・専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。

(2) 専任教員数

認可時の計画						変更状況						備考
教授	准教授	講師	助教	計	助手	教授	准教授	講師	助教	計	助手	
12	6	7	2	27	5	12 13	5 7	9 6	3 2	29 28	4 5	
(6)	(4)	(7)	(1)	(18)	(3)	[0] [-1]	[Δ1] [-1]	[+2] [Δ1]	[+1] [-0]	[+2] [-1]	[Δ1] [-0]	

(注) ・「認可時の計画」には、設置認可時に予定されていた完成時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成23年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[] 内に設置認可時計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番号	職位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
1	教授	小野 啓郎	本人の健康上の理由により、辞任したい旨申し出があった為。(平成22年12月末辞任)
2	教授	渡辺 正仁	一身上の都合により、辞任したい旨申し出があった為。(平成22年12月末辞任)
3	教授	小川 敬之	一身上の都合により、平成23年4月の就任を辞退したい旨申し出があった為。
4	教授	宮田 曠	一身上の都合により、平成23年4月の就任を辞退したい旨申し出があった為。
5	准教授	野村 卓生	一身上の都合により、辞任したい旨申し出があった為。(平成22年3月末辞任)
-1	講師	小島 久典	本人の健康上の理由により、就任辞退したい旨申し出があった。(22)
-2	教授	宮田 曠	一身上の都合により、就任延期したい旨申し出があった。(22)

(注) ・設置認可時の計画からの専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>平成22年度中に辞任した専任教員3名(教授2名及び准教授1名)の担当科目(延べ12科目)については、代わりとなる専任教員3名(教授1名：平成22年12月教員審査済み、平成22年4月より就任。教授1名：平成22年8月教員審査済み、平成23年1月より就任。講師1名：平成22年12月教員審査済み、平成23年4月より就任。)を採用して補充しており、「医の倫理」の科目に兼任講師を充てた他は、全科目これら後任の教員にて担当し当初予定どおり開講している。</p> <p>また、平成23年4月に就任予定だったが辞退の申し出があった教授(2名)の担当予定科目については、次のとおり代わりの教員が担当している。</p> <p>「感染症学(3年次・必修)」、「医療安全学(3年次・必修)」は、平成22年12月の教員審査を経て、平成23年4月より着任した教授(専任)が担当して開講している。</p> <p>「作業療法治療学実習Ⅰ(3年次・必修)」は、平成22年12月の教員審査を経て、平成23年4月より助教(専任)が担当する。</p> <p>「作業療法治療学実習Ⅱ(3年次・必修)」は、平成22年12月の教員審査を経て、平成23年4月より講師(専任)が担当する。</p> <p>「小児期理学療法治療学(3年次・必修)」、「小児科学(2年次・選択)」、「老年期障害治療学Ⅰ・Ⅱ(3年次・必修)」は、教育・実務経験豊富な兼任教員を充て、何ら問題なく開講している。</p> <p>また、「卒業論文(4年次・必修)」、「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ(4年次・必修)」は、複数担当教員による平成24年度開講予定科目であり、新たに着任した専任教員らも担当に加わる予定であり、今回の就任辞退による学生教育への影響はない。</p> <p>平成23年度は、当初計画していた全26名(教授12名、准教授5名、講師7名、助教2名)よりも2名多い、全28名(教授12名、准教授4名、講師9名、助教3名)の教員組織となり、授業及び学生指導の質については、認可時の内容を充分担保出来ている。</p> <p>学生へは、オリエンテーション(在校生：3月31日、新入生：4月1日)時に、授業概要(シラバス)・時間割等において教員変更後の内容を案内しており、周知徹底している。</p> <p>就任辞退となった講師の担当科目については、代わりとなる教員(准教授：平成21年9月教員審査申請済み)を平成22年度から採用して補充している。</p> <p>また、平成22年度就任予定教員(教授1名)からの就任延期の申し出については、延期理由を勘案しやむを得ないこととしてこれを認めた。当該教授の担当予定科目のうち、平成22年度開講科目である「小児科学」は、教育・実践経験豊富な兼任教員を充て何ら問題なく実施しており、その他科目は、平成23年度・24年度開講科目であるため、この教員就任延期による学生教育への影響はない。</p> <p>なお、教員組織の更なる充実を目指し、平成22年1月に教授1名の追加申請を行い、平成22年4月より着任している。これにより平成22年度は、設置計画どおり教員合計は29名(教授11名、准教授5名、講師6名、助教2名、助手5名)となり、授業及び学生指導の質については認可時の内容を十分担保出来ている。</p> <p>学生へは、オリエンテーション(在校生：4月1日、新入生：4月3日)において、授業概要(シラバス)・時間割等全て教員変更後の内容で作成したものを配布することで、周知徹底している。(22)</p>
--

(注) ・上記(3)の教員の辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>認可時 (H20年10月31日)</p>	<p>・設置の趣旨・目的等が活かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p>	<p>・本学は、①進歩した専門医学知識・強靱な実証精神と高い倫理性を具備した高度医療専門職者を育成し、国民の保健・医療・福祉の向上に寄与する。②進歩著しい医学・科学技術を常に取り入れ、地域福祉に展開する手段を研究開発し、これを通じて高度専門職者を教育する。③生命の尊厳、心身障害者への共感と医療・福祉チームにおける信頼醸成を専門職者教育のコアとする。という目的を掲げ、リハビリテーション医学・医療・福祉・保健を研究開発するとともに、高度な専門的知識・理論及び応用を教授し、その成果を人間尊重の視点から広く応用できる21世紀にふさわしい人材の育成を目指して、教職員を積極的に集め施設・設備の充実を図っているところである。</p> <p>今後、教育・研究を通じて広く社会への貢献を果たす為、FDを積極的に実行し、より一層の環境の充実と教育・研究活動の向上に向けて継続的に大学組織全体で取り組んでいく。(21)</p> <p>4年制大学にふさわしい教育研究活動の展開、その水準向上策として、以下の取り組みを行った。</p> <p>①教育活動 入学前教育の一環として指定図書レポートを課し、入学後に基礎ゼミナールで、各テーマについての理解を深める為グループディスカッションを行う等し、その後の授業に繋げている。</p> <p>さらに、若手教員を学習支援担当とし、きめ細やかな学生指導を行うと共に、WEB上での学習支援システムの積極的活用についても検討を始めており、平成22年度より本格運用を開始している。</p> <p>②研究活動 週に1日の研究・臨床日を設け、全教員が積極的に研究活動に参加できるような体制整備に努めている。また、外部研究資金の導入には大学組織全体で取り組んでおり、平成22年度は、3名の教員が研究代表者として科学研究費補助金の内定を得た。</p> <p>さらに、保健医療領域における研究・教育のより一層の発展を目的として、平成22年2月に本学教員を核とした「保健医療学学会」を発足している。（「保健医療学雑誌」第1巻第1号を平成22年4月発刊）今後、会員として、近隣の大学等に所属する教員を始め多くの研究者の参加を募り、研究活動実績の充実・拡大に努める。</p> <p>③教員の資質向上の方策 平成21年12月にFD委員会を設置し、教員の専門的能力及び研究力の向上を目的としたFD研究会を開催したり、授業評価アンケートを実施し、その結果を授業改善に役立てるよう促したりする等、教員の教育研究活動の向上を目的として不断に努力を行っている。(22)</p>	

開設当初から、4年制大学としてふさわしい教育研究活動を行い、その水準を向上させることを目的として、様々な方策を図っているところである。

前回までの報告事項に加える事項は、以下のとおりである。

①教育活動

学生の主体的な学修を促進するための客観的な指標としてGPAによる成績評価制度を導入し、年に1度専攻毎に成績優秀者に対して表彰（副賞として学園独自の奨学金を交付）を行っている。

他にも「日本リメディアル教育学会」に担当教員が参加し、リメディアル教育に関する調査・研究や成功事例、具体的な対応策を組織的に共有し、教育活動に反映させるよう努めている。

また、平成23年度からは、最終学年で履修する卒業研究論文の前段階として、指導予定各教員に分かれ小グループでの事前指導を開始した。

②研究活動

平成22年度は3名の教員が研究代表者として文部科学省科学研究費補助金の交付を受け、また独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構等の他の外部研究資金による受託研究や企業との産学連携研究活動も積極的に実施している。※添付「資料①」参照

さらに、平成22年2月に発足した本学教員による保健医療学学会の活動として、機関誌の発刊及び学術集会（第1回 平成22年12月4日）を実施している。※添付「資料②-1」「資料②-2」参照

③教員の資質向上の方策

他校でのFDや教育改善の取り組み等を共有し、教育活動の改善や教員の資質向上につなげるべく、外部講師によるFD講演会等を実施し、更に平成23年度からは「関西地区FD連絡協議会」にも加盟した。今後、研修会や報告会、各種ワーキンググループ等に積極的に参加し、情報収集や相互研鑽に努める。（23）

・運動場、体育館が別地にあることから、教育に支障のないようにすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。

・基本的には、学生が履修する講義・演習の全授業を天満橋キャンパスにて行う計画であり、彩都キャンパスでは授業は行わない。

また、学生の普段の課外活動や健康増進のため、天満橋キャンパス周辺の公的運動施設や他スポーツ施設等の利用について、便宜をはかる方策を検討中である。(21)

天満橋キャンパスでは教室使用状況を学生にわかるよう常に明示し、授業等で使用していない空き教室を学生に開放し有効活用できるようにしている。彩都キャンパスでは、学生からの要望に応じクラブ顧問が管理・監督の上、体育館や運動場を使用できることとしている。

平成21年度は、天満橋キャンパス周辺公的運動施設や他スポーツ施設等の利用条件について具体的に調査し、また学生委員会を中心に任意に学生へ聞き取りを行う等して、学生の課外活動等の実態と要望の把握に努めた。

その結果を踏まえ、平成22年度には、学生がクラブ等課外活動で天満橋キャンパス周辺の施設を使用する際に、申請があった場合には大学から金銭的補助を行えるよう予算調整し、利用手続き・使用ルールを定めていくよう準備中である。(22)

平成21年度から学生の課外活動や健康増進の為、可能な限り空き教室の開放や彩都キャンパスの利用における利便性向上に努めているところであるが、これに加えて平成22年度からは、各クラブの施設使用料金の補助として「クラブ活動支援費」を予算化した。これは、各クラブからの要求額と前年度の活動実績に基づき、学生委員会の指導の下、学生自治会と各クラブの部長でクラブ毎の予算額を決定し、学園からの補助金を配分するものである。各クラブは、利用した施設使用料の領収書をもって事務局に申請し、配分額を上限として補助を受けることとなる。※添付「資料③」参照

今後更に、学生の普段の課外活動や居場所確保への大学としての配慮や方策について、学生委員会、学生自治会を中心に検討を続けていく。(23)

認可時
(H20年10月31日)

<p>認可時 (H20年10月31日)</p>	<p>・校舎が大阪リハビリテーション専門学校との共用であるので、教育研究に支障のないようにすること。</p>	<p>・今年度の校舎利用状況については、当初設置計画のとおり授業で使用する講義室や各校教員室は共に明確に分けて整備している。 共用で使用する図書館やその他施設についても、互いの学生教育の質と量を十分に維持するに足る広さ・数を配備しており、教育研究上支障はない。(21)(22)</p> <p>・平成23年度から附属大阪リハビリテーション専門学校(夜間)を4年制から3年制に変更したが、校舎利用状況については、当初設置計画のとおり授業で使用する講義室や各校教員室は共に明確に分けて整備しており、この事による学生教育・研究上の支障はない。 共用で使用する図書館やその他施設についても、互いの学生教育の質と量を十分に維持するに足る広さ・数を配備している。(23)</p>	
<p>設置計画履行状況調査時 (平成22年2月)</p>	<p>・特段の留意事項なし</p>		
<p>設置計画履行状況調査時 (平成23年2月)</p>	<p>・特段の留意事項なし</p>		

- (注) ・ 「認可時」には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、毎年度、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料を添付してください。
 - ・ 入学定員超過に係る留意事項への履行状況については、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<保健医療学部 リハビリテーション学科>

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 教員編成</p> <p>平成23年度の教員組織は、教授12名、准教授5名、講師7名、助教2名で全26名の教員編成となる。</p>	<p>設置認可時の教員組織計画との変更は以下のとおりである。</p> <p>平成21年度には講師1名から就任辞退の申し出があった為、後任補充として准教授1名を採用した。また、平成22年度には教員組織の更なる充実を目指し、教授1名を追加採用した。これら平成21年度・22年度中の教員組織変更に伴う担当科目の変更については、それぞれに相応しい教員を充て開講し、何ら問題なく実施されている。（詳細は、前回報告済み）</p> <p>更に、平成22年度中に辞任した専任教員3名（教授2名及び准教授1名）の担当科目（延べ12科目）については、代わりとなる専任教員3名（教授1名：平成21年12月教員審査済み、平成22年4月より就任。教授1名：平成22年8月教員審査済み、平成23年1月より就任。講師1名：平成22年12月教員審査済み、平成23年4月より就任。）を採用して補充しており、「医の倫理」の科目に兼任講師を充てた他は、全科目これら後任の教員にて担当し当初予定どおり開講している。</p> <p>なお、平成23年4月に就任予定だったが辞退の申し出があった教授（2名）の担当予定科目については、次のとおり代替りの教員が担当している。</p> <p>「感染症学（3年次・必修）」、「医療安全学（3年次・必修）」は、平成22年12月の教員審査を経て、平成23年4月より着任した教授（専任）が担当して開講している。</p> <p>「作業療法治療学実習Ⅰ（3年次・必修）」は、平成22年12月の教員審査を経て、平成23年4月より助教（専任）が担当する。</p> <p>「作業療法治療学実習Ⅱ（3年次・必修）」は、平成22年12月の教員審査を経て、平成23年4月より講師（専任）が担当する。</p> <p>「小児期理学療法治療学（3年次・必修）」、「小児科学（2年次・選択）」、「老年期障害治療学Ⅰ・Ⅱ（3年次・必修）」は、教育・実務経験豊富な兼任教員を充て、何ら問題なく開講している。</p> <p>「卒業論文（4年次・必修）」「総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ（4年次・必修）」は、複数担当教員による平成24年度開講予定科目であり、新たに着任した専任教員らも担当に加わる予定であり、今回の就任辞退による学生教育への影響はない。</p> <p>平成23年度は、当初計画していた全26名（教授12名、准教授5名、講師7名、助教2名）よりも2名多い、全28名（教授12名、准教授4名、講師9名、助教3名）の教員組織となり、授業及び学生指導の質については、認可時の内容を充分担保出来ている。</p>

—平成22年度に教授4名、助教1名、助手2名が新たに就任し、総勢29名（教授11名、准教授4名、講師7名、助教2名、助手5名）の教員編成となる。
—(22)—

—開設当初本人の健康上の理由により講師1名が就任延期となった為、平成21年度は講師1名減にて開学した。当該教員の1年次担当科目のうち、「基礎ゼミナール」と「臨床見学実習」は複数の担当者による科目であるため、入学者（受講者）数からみて、何ら問題なく履行された。なお他の講義2科目（「基礎作業療法学Ⅰ」「基礎作業療法学Ⅱ」）については、教育・実践経験の豊富な兼任教員を補充した。その後当該講師より就任辞退の申し出があったため、平成21年9月に、当該講師に代わる新たな教員を採用すべく教員審査を受け、平成22年度より准教授1名を補充している。

—また、平成22年度就任予定であった教授1名（医師免許有資格者）から、一身上の都合により1年間就任を延期したい旨申し出があったため、やむを得ないこととしてこれを認めた。当該教授の担当予定科目のうち、平成22年度開講科目である「小児科学」は、講義内容を勘案し十分な業績を有する兼任教員を充て何ら問題なく実施している。その他科目は、平成23年度・24年度開講科目であるため、問題はない。

—また、教員組織の更なる充実を目指し、平成22年1月に教授1名の追加申請を行った。当該教授は平成22年4月に着任し、前年度学長（教授）が担当していた「リハビリテーション医学」：1年後期必修科目と、当初計画では兼任教員が担当する予定であった「臨床神経学」：2年通年必修科目及び「チーム医療論」：4年後期必修科目を新たに担当する。

—これにより平成22年度は、設置計画どおり教員合計は29名（教授11名、准教授5名、講師6名、助教2名、助手5名）となり、授業及び学生指導の質については認可時の内容を十分担保出来ている。
—(22)—

- (注) ・ 1～6の項目により記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

- ・ **FD委員会**：平成21年12月1日発足後、平成22年度は6名の委員にて構成

~~・ FD委員会（H21年12月1日発足）※別添資料①「FD委員会規程」参照（22）~~

- ・ **自己点検・評価委員会（教学分科会）**：H21年12月1日発足後、平成22年度は11名の委員にて構成

~~・ 自己点検・評価委員会（教学分科会）（H21年12月1日発足）（22）~~

※別添資料②「自己点検・評価委員会規程」参照

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

（FD委員会の開催）

第1回	平成22年	4月13日（火）	（参加者6名、欠席0名）
第2回	平成22年	5月11日（火）	（参加者6名、欠席0名）
第3回	平成22年	6月8日（火）	（参加者6名、欠席0名）
第4回	平成22年	7月13日（火）	（参加者6名、欠席0名）
第5回	平成22年	9月14日（火）	（参加者3名、欠席3名）
第6回	平成22年	10月12日（火）	（参加者6名、欠席0名）
第7回	平成22年	11月9日（火）	（参加者6名、欠席0名）
第8回	平成22年	12月14日（火）	（参加者6名、欠席0名）
第9回	平成23年	1月11日（火）	（参加者6名、欠席0名）
第10回	平成23年	2月8日（火）	（参加者6名、欠席0名）

~~（FD委員会の開催）（22）~~

~~第1回準備会議：平成21年11月22日（参加9名、欠席0名）~~

~~第2回：平成22年2月22日（参加9名、欠席0名）~~

（自己点検・評価委員会）

第1回	平成22年	6月22日（月）	（参加11名、欠席0名）
第2回	平成22年	9月28日（月）	（参加11名、欠席0名）

~~（自己点検・評価委員会）（22）~~

~~第1回：平成22年2月22日（参加10名、欠席0名）~~

c 委員会の審議事項等

（FD委員会）

- ・ H22年度のFD委員会の活動についての事項
- ・ 専任教員によるFD研究会の開催に関する事項
- ・ 外部講師によるFD講演会の開催に関する事項
- ・ 授業の内容および改善の方策に関する事項

~~（FD委員会）（22）~~

~~・ 今後のFD委員会の活動について~~

~~・ 授業の内容および改善の方策に関する事項~~

~~・ 研究会及び講習会の開催に関する事項~~

~~・ 産学連携、各種団体との連携の推進等の地域貢献活動に関する事項~~

（自己点検・評価委員会）

- ・ 三認証機関（大学基準協会、大学学位授与機構、日本高等教育評価機構）の検討
- ・ 財団法人日本高等教育評価機構の大学評価基準内容について
- ・ 教員研究活動報告書の作成について

~~（自己点検・評価委員会）（22）~~

~~・ 委員長より大学評価（認証評価）についての概略説明~~

~~・ 今後の自己点検・評価委員会の活動について~~

② 実施状況

a 実施内容

(FD委員会)

○FD研究会の実施

専任教員が自らの専門分野を教育学的観点に立って講義する技能と態度を向上することを目的とし、研究活動を発表・議論し、互いに研鑽する場を設ける。

○FD講演会

他大学におけるFDの取り組み方の現状を把握することを目的とし、FD活動に精通した講師を招いて、講演会を開催する。

○学生による授業評価アンケートの実施

授業内容および教育方法の改善を目的として、学生の積極的な参加を前提とし、学生による授業アンケートを実施する。

~~(FD委員会)(22)~~

~~○FD研究会の実施~~

~~教員の研究力と卒業研究指導に向けた資質の維持・向上を目的として、各教員の研究活動を発表・議論し、互いに研鑽する場を設けている。~~

~~(教務委員会)(22)~~

~~○授業評価アンケート~~

~~○講習会等の実施~~

~~・学習支援システムについての説明会や操作講習会、改善会議等を順次開催しながら試験運用を開始し、検証の上変更を加え平成22年度から本格運用を開始している。~~

~~・新任教員の為の全体会議(授業方法確認等)~~

b 実施方法

○FD研究会

第1回 平成22年 6月15日 「神経リハビリテーションについて」

第2回 平成22年 7月20日 「介助犬について」

第3回 平成22年 9月21日 「当学園におけるEラーニングコンテンツの現状報告」

「簡単なEラーニングコンテンツ作成研修」

「Eラーニングコンテンツを用いた効果的運用の解説」

第4回 平成22年10月19日 「障害者の居住支援制度とその課題」

「Eラーニング Moodleの説明」

「広汎性発達障害を伴った人工内耳装用児の経過」

第5回 平成22年11月16日 「嚙下障害の教育におけるE-ラーニングの活用」

第6回 平成23年 1月18日 「言語科学の現状とST専攻科の教育への応用」

~~○FD研究会(22)~~

~~第1回：平成21年11月17日「専任准教授による研究の紹介」~~

~~第2回：平成21年12月15日「専任教授による研究の紹介」~~

~~第3回：平成22年 1月19日「学長によるプレゼンテーション」~~

~~第4回：平成22年 2月23日「スポーツ医科学研究所の活動と在り方」~~

~~第5回：平成22年 3月23日「専任講師による研究の紹介」~~

○FD講演会

開催日 平成22年12月21日(火)

テーマ 「FD教育の現状と課題 ―多様化する学生が満足する授業のあり方―」

○授業評価アンケート

前期試験・後期試験前の最終授業終了後に、全科目(専任・非常勤)について科目担当教員より配布・回収して実施した。回答は、マークシート方式(16項目)及び記述式(3項目)とした。マークシートは、学生の意欲・教室教材の利用・授業内容・教員の意欲等について、5段階で評価するもの。

~~○授業評価アンケート(22)~~

~~前期試験・後期試験前の最終授業終了後に、全科目(専任・非常勤)について担当教員より配布・回収して実施した。回答は、マークシート方式(15問)及び記述式(3問)とし、学生の意欲・教室教材の利用・授業内容・教員の意欲等について、5段階で評価するもの。~~

~~○講習会等の開催(22)~~

~~・学習支援システム研修会：外部講師(株)ニュー・メディア・エデュケーション・システムズ(鈴木夫輔氏)を招聘し、学内研修・改善点洗い出し等を実施した。~~

~~・新任教員の為の全体会議開催：専任教員(教務委員会委員長)を議長として実施。~~

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○FD研究会

- 第1回 平成22年 6月15日（参加者21名）
- 第2回 平成22年 7月20日（参加者28名）
- 第3回 平成22年 9月21日（参加者24名）
- 第4回 平成22年10月19日（参加者28名）
- 第5回 平成22年11月16日（参加者25名）
- 第6回 平成23年 1月18日（参加者26名）

~~○FD研究会（22）~~

- ~~第1回：平成21年11月17日（参加22名）~~
- ~~第2回：平成21年12月15日（参加20名）~~
- ~~第3回：平成22年 1月19日（参加23名）~~
- ~~第4回：平成22年 2月23日（参加20名）~~
- ~~第5回：平成22年 3月23日（参加18名）~~

○FD講演会

平成22年12月21日 参加者55名

○授業評価アンケート

前期：保健医療学部32科目、言語聴覚専攻科22科目 計54科目
後期：保健医療学部28科目、言語聴覚専攻科11科目 計39科目

~~○授業評価アンケート（22）~~

- ~~前期：計25科目 総回収数1378~~
- ~~後期：計23科目 総回収数1145~~

~~○講習会等の開催（22）~~

- ~~・新任教員全体会議：平成21年4月1日（参加20名）、平成22年4月1日（参加9名）~~
- ~~・学習支援システム講習会：平成21年4月1日（参加20名）、平成21年4月21日（参加18名）、平成21年6月9日（参加16名）、平成22年3月15日（参加12名）~~

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

授業評価アンケートの結果は担当教員に報告し、学生からの要望点を示して授業改善を促した。また、学生へのフィードバックについては、授業評価アンケートの学生からの意見に対し、担当教員から学生へのコメントを作成の上、受講についてのメッセージを添えて学内の学習支援システムに掲載することとした。
今後も各専攻、専攻科、教務委員会と連携しながら、授業内容・授業方法の改善を組織的に行っていく。

~~授業評価アンケートの結果を担当教員に報告し、学生からの要望点を示して授業改善を促した。~~
~~また、教養科目の1科目については、アンケート結果に基づき教務委員会で検証・検討の結果、平成22度の担当予定だった非常勤講師1名を交代した。~~
~~今後もFD委員会を中心に自己点検・評価委員会及び教務委員会等と連携しながら、授業内容・授業方法の改善を組織的に行っていく。（22）~~

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
(別紙のとおり)

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・平成25年11月1日 公表予定

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を作成し、大学ホームページ上に公開予定(H25年11月を予定)

③ 認証評価を受ける計画

・平成25年度(完成年次)を経て数年後に、その後評価機関((財)日本高等教育評価機構)の評価を受けるべく、自己点検・評価委員会を中心に準備中である。

~~・平成27年度までに評価機関(大学基準協会あるいは(財)高等教育評価機構)の評価を受けるべく、学内で検討中である。評価機関決定後は、当該評価項目に沿って自己点検を実施するよう自己点検・評価委員会にて主管する。(22)~~

(注) ・ 設置認可時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報提供に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期(未公表の場合は予定時期) (平成22年2月10日)

c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)

d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス

(<http://www.ohsu.ac.jp/about/disclosure/index.html>)

(注) ・ 「c」において「承諾する」場合、文部科学省のホームページにてリンク先を掲載しますので、大学等のトップページではなく直接リンクする先を「d」に記入してください。

なお、「d」のリンク先のアドレスが未定の場合は、決まり次第、文部科学省高等教育局大学設置室あてに、メールにてご報告ください。

※大学設置室メールアドレス : d-secchi@mext.go.jp

件名は「【調査係あて】AC報告書等HPリンク先(〇〇大学)」としてください。